

# 豊田工業高等専門学校 平成22年度 自己点検評価書

	平成22年度年度計画の概要	平成22年度実績報告(自己点検)
<p><b>【1. 教育に関する事項】</b>  <b>(1) 入学者の確保(学生募集活動、女子学生確保、入試方法の改善等)</b></p>	<p>①学生募集活動            学校説明会、オープンキャンパス、職員による学校訪問、学生の卒業中学校訪問、中学校長会でのPRを行ってきた。加えて新たな取組として、中学校進路指導教員との情報交換会の企画、校長の中学校個別訪問による情報提供・PRの実施する。</p> <p>②女子学生の確保            ・入寮を希望する女子学生に対応するため増築する。            ・新入女子学生が入寮したくなる際に整備する。</p>	<p>①学生募集活動            学校説明会(15回)、オープンキャンパス(2日間)、教員による愛知県内全中学校を対象とした訪問(一部離島、分校は除く)、1年生を主とした学生の卒業中学校(母校)訪問、校長による中学校長会でのPRを実施した(一部実施予定)。また、新たに中学校進路指導教員との情報交換会を新規に実施(7月23日(金))し志願者確保への情報提供・PR活動及び情報の収集を実施した。</p> <p>②女子学生の確保            ・入寮を希望する女子学生に対応するため増築を実施する。本年度は計画実施初年度で施工図面を完成し、次年度竣工を予定している。</p>
<p><b>(2) 教育課程の編成(学科再編、大括り化・コース制の導入、専攻科の充実等)</b></p>	<p>①学科及び専攻科の構成・改組等            当面現状を維持することとし、引き続き将来構想企画室で社会情勢の変化等に応じて対応するための調査研究を進める。</p> <p>②専攻科の充実            科学技術振興事業費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを活用して企業技術者と交流できる講座に積極的に参加させる。</p>	<p>①学科及び専攻科の構成・改組等            当面現状を維持することとし、引き続き、関係委員会で検討を進めることとした。</p> <p>②専攻科の充実            科学技術振興事業費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムを活用して企業技術者と交流できる講座に積極的に参加させた。            専攻科生 電子機械工学専攻16名 情報科学専攻9名            計25名</p>
<p><b>(3) 優れた教員の確保(採用方針、女性教員採用、他機関との交流、FD等)</b></p>	<p>①採用方針(女性教員採用)            科学技術振興事業団の研究者人材ベースに登録するとともに、全国の高等専門学校及び大学に継続して教員公募に関する周知を行い公募制を積極的に導入し、全国から有能な人材の確保に努める。また、能力等が同等なら積極的に女性を採用する方針である。</p> <p>②他機関との交流            高専・両技科大との教員交流制度を活用する。            20年度派遣0名 受入0名、21年度派遣2名 受入0名、22年度派遣1名 受入2名</p> <p>③FD            ・教育改善室において本校の特性を踏まえた教材や教育方法について討議するとともに教育方法方法について情報交換を行う。            ・FDセミナーを開催し教育の質の向上を図る。</p>	<p>①採用方針(女性職員採用)            3学科(4名)の教員公募を行い、公募内容にも「女性教員採用」について、積極的に言う旨記載した。</p> <p>②他機関との交流            高専・両技科大との教員交流制度を活用した。            22年度派遣1名、受入2名</p> <p>③FD            8月30日(月)に教育改善推進室とキャリア支援準備室との共催でFDセミナーを開催した。            授業支援ツールを本校ホームページに掲載(7月22日)し、教育方法についての情報を共有した。            従前から実施している「授業評価アンケート」の見直しを図り、「授業改善のためのアンケート」として前学期アンケートを9月初旬に実施し、10月12日に集計結果を校内に公開した。また、後学期アンケートを2月初旬に実施し、現在集計中である。            授業改善アンケート実施を踏まえて1月12日に学生との対話会を実施し、本校のFD活動に関して学生からの意見収集を行った。</p>
<p><b>(4) 教育の質の向上・改善(自己点検評価、JABEE認定、共同教育、企業人材の活用等)</b></p>	<p>①JABEE認定            平成22年度は、機械工学科・情報工学科・建築学科の継続認定の手続きを行い教育の質の向上に努める。なお、建築学科については1年前倒し。</p> <p>②企業人材の活用            科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」のカリキュラムにおいて、現役の企業技術者が一部の授業を担当する。</p>	<p>①JABEE認定            平成22年10月24日(日)から10月26日(火)までの3日間、機械工学科・情報工学科・建築学科の継続認定の現地審査を受けた。</p> <p>②企業人材の活用            科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」の前期カリキュラムにおいて、現役の企業技術者が一部の授業を担当した。            (株)デンソー技研センター 9名</p> <p>・従来、本科生のインターンシップ(選択科目)は2週間2単位で行っていたが、200社を超える企業に受入依頼をしても大学生との兼ね合いもあり、学生の希望となかなかマッチングしないため、昨年度から1週間1単位を認めることとし、学生にとって受け入れ先を選択しやすい環境を整えた。</p> <p>・平成22年3月に開催した外部評価委員会で自己点検し、評価を受けた事項について、外部評価報告書に取りまとめた。</p>

# 豊田工業高等専門学校 平成22年度 自己点検評価書

	平成22年度年度計画の概要	平成22年度実績報告(自己点検)
<p>(5) 学生支援・生活支援 (メンタルヘルス、生活支援、キャリア教育 等)</p>	<p>①メンタルヘルス 機構等が開催する教職員を対象としたメンタルヘルス講習会に積極的に参加させるとともに、本校においても講習会を開催する。</p> <p>②生活支援 寄附金を活用した学生生活支援体制の構築について検討する。</p> <p>③キャリア教育 キャリア支援室を立ち上げ、キャリア教育のあり方をまとめる。</p>	<p>①メンタルヘルス ・9月9日～10日 平成22年度東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会(相談室長, 看護師出席) ・12月17日 平成22年度「学生相談インターカークセミナー」(寮務主事補出席) ・1月27日～28日 全国メンタルヘルス研究会(相談室長, 看護師出席)</p> <p>②生活支援 学生生活支援等を目的とした寄附金を受入れ、留学生に対して奨学金給与を支給した。</p> <p>③キャリア教育 キャリア支援準備室にてキャリア支援のあり方についての検討結果をまとめた(9月21日)。その結果を踏まえキャリア教育支援室を立ち上げた。</p> <p>④「発達障害の基礎知識」についての講演会を9月30日に開催した。参加数38名 1月26日に第2回目の講演会を実施した。参加数30名</p>
<p>(6) 教育環境の整備・活用(施設マネジメント、教育環境充実、環境配慮、寄宿舎整備 等)</p>	<p>①施設マネジメント ・施設整備計画に従い、計画的に施設整備を行うよう努める。 ・現有施設を長期間使用するための長期的整備計画を立案する。</p> <p>②教育環境充実 全教室配置のプロジェクターの計画的更新を図る。</p> <p>③環境配慮 温暖化効果ガスの削減を図る。</p> <p>④寄宿舎整備 ・空調機の設定 ・男女入寮希望者の変動に対応できる寮体制を確立する。 ・職員宿舎や学生寮の新築建設費用は、土地の売払代やPFI事業等により捻出することを考えている。</p>	<p>①施設マネジメント 学内で営繕工事の要求を取りまとめ、施設整備計画委員会において整備計画を策定した。</p> <p>②教育環境充実 全教室配置のプロジェクターの更新を計画的に進めている。</p> <p>③環境配慮 空調機の集中管理、照明等を高効率機器へ変更する等省エネに努め、温暖化効果ガスを削減するよう進めている。</p> <p>④寄宿舎整備 既設寄宿舎空調機の整備については、早期に実現できるよう検討を行っている。学生寮増築の設計を今年度発注し、来年度以降予算がつく予定である。職員宿舎については、高層集中化する計画としている。</p>
<p>【2. 研究に関する事項 (外部資金獲得、産学連携、知財管理 等)】</p>	<p>①外部資金獲得 ・平成21年度に採択された科学技術振興調整費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムは2年目に入り、産学官連携による学生・技術者の共同育成を通じて、ものづくりを「一気通観」で見通せる的確な方策を実践できる創造力豊かなリーダー的技術者を養成していくため受講生を受入れる。</p> <p>・科学研究費補助金は、毎年、採択件数が上位となっており、原則として全教員申請とし、引き続き資金獲得に努める。</p> <p>・受託研究・共同研究・奨学寄附金については、今後も積極的に資金獲得に努める。</p> <p>・質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)2件、「多読・多聴による英語教育改善の全学展開～苦手意識を早期に克服し、自律学習を継続させ、英語運用能力を顕著に向上させる新しい英語教育の展開・伸張～」、「ボランティア活動を活用した実践教育～防災教育・環境・町づくりボランティア～」の年次計画に従い確実な成果をあげる。</p> <p>・戦略的産学連携支援事業「工科系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成」が採択され連携大学と連携し確実な成果をあげる。</p> <p>・平成23年度に向けて、教育・研究関連の各種事業募集に積極的に応募し、新規外部資金獲得を目指す。</p> <p>②知財管理 ・教職員等を対象とした知的財産のための講演会・講習会を開催し、特許出願を推進する。</p>	<p>①外部資金獲得 ・平成21年度に採択された科学技術振興調整費(地域再生人材創出拠点の形成)「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムは2年目に入り、産学官連携による学生・技術者の共同育成を通じて、ものづくりを「一気通観」で見通せる的確な方策を実践できる創造力豊かなリーダー的技術者を養成していくため受講生38名を受入れた。</p> <p>・外部講師を名古屋大学から招へいし、科学研究費補助金に関する説明会を9月16日(木)に開催した。教員55名、その他13名 計68名参加 原則として全教員申請とし、引き続き資金獲得に努める。 受託研究・共同研究・奨学寄附金については、今後も積極的に資金獲得に努める。 受託 0件 共同研究 7件 奨学寄附金 7件</p> <p>・質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)2件、「多読・多聴による英語教育改善の全学展開～苦手意識を早期に克服し、自律学習を継続させ、英語運用能力を顕著に向上させる新しい英語教育の展開・伸張～」、「ボランティア活動を活用した実践教育～防災教育・環境・町づくりボランティア～」の年次計画に従い確実な成果をあげる。 多読GPの最終報告会を開催した(12月10日)</p> <p>・戦略的産学連携支援事業「工科系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成」が採択され連携大学と連携し確実な成果をあげる。 本校が主管となり名古屋工業大学で「時計づくり講座」を12月11日(土)に開催した。参加者数28名(小中学生) 中間報告書の作成。</p> <p>・平成23年度に向けて、教育・研究関連の各種事業募集に積極的に応募し、新規外部資金獲得を目指す。 応募件数 18件 採択 7件</p> <p>②知財管理 ・教職員等を対象とした知的財産のための講演会を開催した(2月9日)</p>

豊田工業高等専門学校 平成22年度 自己点検評価書

	平成22年度年度計画の概要	平成22年度実績報告(自己点検)
<p>【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項(地域技術者育成への貢献、理科教育支援、卒業生ネットワークの構築、国際交流協定の締結、学生の海外派遣、留学生の受入等)】</p>	<p>①地域技術者育成への貢献 科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムに基づき、豊田市と連携し地域の技術者育成に貢献する。</p> <p>②理科教育支援 引き続き、公開講座及び出前授業の実施、地域企画事業への積極的参加</p> <p>③学生の海外派遣 幅広い知識・経験を育てるため、多くの学生が海外留学しており、積極的に海外留学をサポートする。</p>	<p>①地域技術者育成への貢献 科学技術振興調整費「ものづくり一気通観エンジニアの養成」プログラムに基づき、豊田市と連携し地域の技術者育成に貢献する。 平成22年度ものづくり人材育成講座の開講(豊田市・豊田商工会議所と連携)</p> <p>②理科教育支援 引き続き、公開講座及び出前授業の実施、地域企画事業への積極的参加 公開講座10件 出前事業2件 地域貢献 4件</p> <p>③学生の海外派遣 私費留学においてカリキュラムの弾力的な運用により、海外留学支援を積極的に推進している。その結果、31名が10カ月程度留学している。 機構募集の海外インターンシップに専攻科生が1名参加(3月4日～3月27日) JENESYSシンガポール高専学生派遣(7月28日～8月6日)に3名参加</p> <p>④JICA「産業技術境域」研修者9名(スリランカ他7カ国)が本校を訪問(6月16日)し、施設見学等を行った。 シンガポールポリテクニクの理工系学生24名が本校を訪問(10月1日)し、施設見学や本校学生と情報交換を行った。</p> <p>●地域との連携 平成22年度高専改革推進事業「地域のケーブルネットワークを利用した高専PR及び公開講座の配信—学生と地域社会のコラボレーション—」 ・ロボカップドキュメンタリー番組の制作及び配信(放映) ・ケーブルテレビ用 公開講座(1講座)の制作及び配信(放映)</p> <p>上海万国博覧会において豊田市の要請に応じ、日本館愛知県ウイークの最終日(8月5日)に昨年度のロボコンに参加したロボットの实演を行った。</p> <p>●産学連携推進に向けた具体的な取組 ・豊田市が企画する市内の中小企業における若手技術者を対象とした「ものづくり人材育成講座」について会場を提供するとともに講師の派遣を行った。 ・豊田市及び豊田商工会議所と連携し、地域産業界を取り込んだ「ものづくり支援センター(仮称)」の設置に向けて、豊田市ものづくり人材育成推進協議会を立ち上げ、地域産業の持続的発展のため検討を進めている。</p>
<p>【4. 管理運営に関する事項(危機管理体制、教職員の服務監督・健康管理、職員の研修、人事交流等)】</p>	<p>①危機管理体制 従来、作成してある災害・緊急事態対応マニュアル・インフルエンザ対応マニュアル・情報セキュリティに関するマニュアル等を一体化した危機管理マニュアルを策定し、対応する。</p> <p>②教職員の適性な服務監督・健康管理 原則、総務課事務室にある出勤簿へ出勤後押印させ、休暇簿についてもその場で記入する方法により、出勤・休暇状況を把握できるようにしている。病休・休職等の対応については、該当学科主任から人事労務係へ連絡するとともに、速やかに校長へ相談し授業の代替等を検討するようにしている。</p> <p>③職員の研修 教員は教員教育研修会への参加を進め、事務職員や技術職員は能力の向上のため、高専機構、文部科学省、国立大学法人、社団法人国立大学協会、企業、地方自治体などが主催する研修会へ積極的に参加させる。</p> <p>④人事交流 教員は、「高専・両技大間教員交流制度」を利用し、他高専・大学等と人事交流を積極的に行う。職員は、高専間、近隣の機関(名古屋大学、名古屋工業大学、愛知教育大学、岡崎統合事務センター)と積極的に交流を進める。</p>	<p>①危機管理体制 今年度中に従来、作成してある災害・緊急事態対応マニュアル・インフルエンザ対応マニュアル・情報セキュリティに関するマニュアル等を一本化した危機管理マニュアルを作成中である。</p> <p>②教職員の適性な服務監督・健康管理 計画とおりに実施 校長による教員個人面談により、教員が日頃から考えている教育・研究その他学校運営等に関する意見交換を行った。</p> <p>③職員の研修 計画とおりに実施 教員教育研究集会参加者 13名(発表・審査員等) 研修参加者 教員6名 事務職員16名 技術職員4名</p> <p>④人事交流 教員については、交流制度により派遣1名、受入2名。事務職員については、名古屋大学へ派遣1名、受入9名、7月から岡崎統合事務センターと人事交流(受入・派遣)1名(3年間)実施。</p>
<p>【5. 業務運営の効率化に関する事項(一般管理費の縮減、随意契約の見直し等)】</p>	<p>①一般管理費 ・さらに光熱水料の縮減を検討する。 ・照明機器の省エネタイプを導入する。</p> <p>②職員配置 ・業務マニュアルの見直しにより、各課・係の業務内容を把握し整理を行い、人員の適正配置等を検討する。</p> <p>・平成22年度から全職員について労働時間の有効活用を図るため、変形労働制を導入した。今後は、各職員の時間外労働時間を含む労働時間を把握し、さらなる個人毎の労働時間有効活用を促進する。</p>	<p>①一般管理費 現在2系統(校舎・学生寮)で引き込んでいる電気を1系統で引き込むことで、基本料を削減できるような受電設備の改修を営繕要求で要求している。照明機器については順次高効率機器に更新している。</p> <p>②職員配置 ・業務マニュアルの見直し、各係の業務量を把握等により、人員の適正配置等を検討する。</p> <p>・事務職員及び技術職員への変形労働制の導入については、初年度となることから、労働時間の有効活用と併せて、四半期毎の業務及び労働時間設定についての検証等を行っている。</p>
<p>【6. その他】</p>		